部局名：人文科学府人文基礎専攻
学位名：修士
学位プログラム名：人文基礎

新ディプロマ・ポリシー

◆教育の目標

人文学府の諸学問の根本は、人間の精神文化を培い、表現し、蓄積する知の宝庫としての言葉を通じて、人間の本質とその営為を探求することにあります。本学府は九州大学の『教育憲章』『学術憲章』に則り、言葉に自覚的かつ批判的に関わる中で、人間存在の奥深さへと眼差しを向け、文化・歴史・社会の多様性を認識し、新たな人文学的知の創造に寄与する人材を育成することを、教育の目的としています。

こうした教育の目的のもとに、本学府は人文学基礎、歴史空間論、言語・文学の 3 専攻を置き、その下に 18 の専修において、人文学全般の問題意識を共有しつつ、専門性を深めた教育を行います。そして、人文学の学術研究を先導する中核的役割を担い、成果を世界に発信する研究者、教育者、社会人を養成します。

◆教育の目的

人文科学府人文基礎専攻では、哲学・思想、芸術学、日本学を対象とする学問領域において、国際的に競争力のある教育、研究指導、論文作成の環境を学生に提供します。そして、学士課程での学習や学問的経験を基盤にしてより高度な専門教育を行い、現代社会の提起する諸問題に対しても多角的に考察しうる人材を養成します。

こうした教育の目的のもとに、人文科学府人文基礎専攻では以下を達成しうる者に九州大学学位規則に基づき、学位（修士）を授与します。

・真・善・美という人類の最も基本的な価値に関する研究を通じて培った技能を応用して、物事を根本から思索する能力を発揮することができる。
・批判的な討論を通して養われた、自らの意見をより客観的視点から組み立てる姿勢により、他者を尊重する市民性を発揮できる。
・博士課程に進学し、専攻する学問領域においてさらに研究を深化させて、独創的な成果をあげることができる。
・教育・研究に関連した職業に就き、哲学・思想、芸術学、日本学の体系的な知識や方法論を社会に普及させ、その一層の活用を図ることができる。

学修目標

A. 知識・理解

A-1. （人文学と現代文化の理解）人文学の知識をもとに、現代文化のあり方とそれへの多様なアプローチを説明できる。

A-2. （専修分野の知識と理解）哲学、倫理学、インド哲学史、中国哲学史、芸術学、広人文学ないしはこれらの領域を横断する研究のうち一つを対象として、当該分野における研究史と方法論を説明できる。

B.　専門的技能

B-1. 知識・理解の応用
B-1-1. （資料の蒐集・分析能力）人文基礎の領域に関する文献や一次資料、調査データを蒐集し、各分野の専門的な方法論にもとづいて整理・分析することができる。
B-1-2. （文献の読解力）過去に蓄積された重要な文献、とりわけ古典を厳密かつ精確に読解し、先行研究を踏まえつつ批判的に考察することができる。
B-1-3. （作品の理解力）芸術学を対象とする領域では、芸術作品を正確に理解するとともに、重要な先行研究をふまえて、実証的な考察と理論的な分析を行うことができる。
B-1-4. （表現力）他者の意見を理解するとともに、自分の意見を明確に表現し、研究成果を学会における口頭発表や学術論文によって公表できる。
B-1-5. （外国語運用能力）外国語を取り扱う専門分野では、外国語の運用能力を高め、自らの専門的知識を表現できる。

B-2. 新しい知見の創出
B-2-1. （知識・理解の深化と統合）専門分野の内容に関する深い理解と、学問固有の思考方法を獲得し、高度に専門的な知識を有機的に総合できる。
B-2-2. （独創性）新たな視点から問題提起を行い、それを解決するための方法を提示できる。

C. 実践的場面での知識・理解の活用
（他者を尊重する公平な姿勢）先行研究と自らの学説を批判的に討論し、自らの意見をより客観的視点から組み立て、他者の意見を尊重する、市民性のある公平な姿勢で論文を作成し、高度な学術研究に貢献することができる。

新カリキュラム・ポリシー

【コースワーク】
本専攻は、哲学、倫理学、インド哲学史、中国哲学史、芸術学、広人文学の 6 専修から構成されていて、学生はどれか一つを選択します。それぞれの専修では、上記のディプロマ・ポリシーを達成するために、別表（カリキュラム・マップ）の通り、教育課程を編成しています。
学生は、これらの「研究」「特論」「論文指導」などの授業を通して、専門分野の理解・知識と能力を養いますが、一方、広人文学専修以外では「現代文化論 A～D」を 4 単位修得することで、人文科学の大学院水準での広い基礎教養を身につけます。

各専修の授業科目はカリキュラム・マップのとおりです。
修士課程では論文指導 2 単位を含めた合計 30 単位以上の修得と修士論文が､修了要件となります。

【研究指導体制】
研究指導体制は、指導教員（１名）と副指導教員(複数名)のもとで研究指導を受けます。副指導教員には他専修の教員が 1 名加わります。

【学位論文審査体制】

修士論文の審査は、指導教員と副指導教員の全員で行います。立ち会い教員として、他専修の教員も１名参加する口頭試問で、修士論文の内容について質疑応答も行います。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み（内部質保証）】

《アセスメント・プラン》

修士論文を共通ルーブリックによって評価した結果と、カリキュラムについての学生へのアンケートの結果を、FD 委員会による「カリキュラム検討 FD」を開催して分析し、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを検討することで、教学マネジメントを推進します。

新アドミッション・ポリシー

【求める学生像】

本専攻は、真・善・美という人類の最も基本的な価値についての研究を特色とすることから、学生は、ものごとを根本から思索する能力が求められます。そのためにまた、現代のみならず、過去に蓄積された重要な知的遺産、とりわけ古典とされる文献資料・芸術作品を厳密かつ正確に理解する能力も必要とされます。

学部における勉学により、上記の思索する能力、古典を理解する能力を十分に身につけた学生を本専攻は求めています。

【入学者選抜方法】

入学選抜に当たっては、何よりも本専攻の教育理念にふさわしい人材の確保を基本方針とします。そのため、卒業論文あるいは研究計画書の提出を求めるとともに、各専修に必要な専門知識や語学力を問い、さらに口頭試問を課します。

部局名：人文科学府人文基礎専攻
学位名：博士
学位プログラム名：人文基礎

新ディプロマ・ポリシー

◆教育の目標

人文学府の諸学問の根本は、人間の精神文化を培い、表現し、蓄積する知の宝庫としての言葉を通じて、人間の本質とその営為を探求することにあります。本学府は九州大学の『教育憲章』『学術憲章』に則り、言葉に自覚的かつ批判的に関わる中で、人間存在の奥深さへと眼差しを向け、文化・歴史・社会の多様性を認識し、新たな人文学的知の創造に寄与する人材を育成することを、教育の目的としています。

こうした教育の目的のもとに、本学府は人文学基礎、歴史空間論、言語・文学の 3 専攻を置き、その下に 18 の専修において、人文学全般の問題意識を共有しつつ、専門性を深めた教育を行います。そして、人文学の学術研究を先導する中核的役割を担い、成果を世界に発信する研究者、教育者、社会人を養成します。

◆教育の目的

人文科学府人文基礎専攻では、哲学・思想、芸術学、日本学を対象とする学問領域において、国際的に競争力のある教育、研究指導、論文作成の環境を学生に提供します。そして、修士課程での学習や学問的経験を基盤にしてより高度な専門教育を行い、現代社会の提起する諸問題に対しても多角的に考察しうる人材を養成します。

こうした教育の目的のもとに、人文科学府人文基礎専攻では以下を達成しうる者に九州大学学位規則に基づき、学位（博士）を授与します。

・真・善・美という人類の最も基本的な価値に関する研究を通じて培った技能を応用して、物事を根本から思索する能力を多角的に発揮することができる。
・批判的な討論を通して養われた、自らの意見をより客観的視点から組み立てる姿勢により、他者を尊重する市民性を広い方面で発揮できる。
・高度な教育・研究に関連した職業に就き、哲学・思想、芸術学、日本学の体系的な知識や方法論を社会に普及させ、その一層の活用を図ることができる。

学修目標

A. 知識・理解

（専修分野の知識と理解）哲学、倫理学、インド哲学史、中国哲学史、芸術学、広人文学ないしはこれらの領域を横断する研究のうち一つを対象として、当該分野における研究史と方法論を体系的に説明できる。

B.　専門的技能

B-1. （知識・理解の深化と統合）専門分野の内容に関する深い理解と、学問固有の思考方法を獲得し、高度に専門的な知識を有機的に総合し、大きな規模で、提示できる。
B-2. （独創性）新たな視点から問題提起を行い、それを解決するための方法を体系的に提示できる。

B-3. （技能の統合）資料の蒐集・分析、文献の読解、作品の理解の高度な能力を統合し、研究対象を深く考察することができる。
B-4. （外国語運用能力）外国語を取り扱う専門分野では、外国語の運用能力を高め、自らの専門的知識を表現できる。

C. 実践的場面での知識・理解の活用
（他者を尊重する公平な姿勢）先行研究と自らの学説を批判的に討論し、自らの意見をより客観的視点から組み立て、他者の意見を尊重する、市民性のある公平な姿勢で論文を作成し、その分野の学術研究を先導する貢献をすることができる。

新カリキュラム・ポリシー

【コースワーク】
本専攻は、哲学、倫理学、インド哲学史、中国哲学史、芸術学、広人文学の６専修から構成されていて、学生はどれか一つを選択します。それぞれの専修では、上記のディプロマ・ポリシーを達成するために、別表（カリキュラム・マップ）の通り、教育課程を編成しています。
学生は、これらの「博士演習」「論文指導」の授業を通して、専門分野の理解・知識と発展的な技能を養います。

各専修の授業科目はカリキュラム・マップのとおりです。
博士課程では博士演習、論文指導各 4 単位の合計８単位以上の修得と博士論文が、修了要件となります。
博士論文提出までの標準的な流れは、1 年次の 4 月に「博士後期課程研究計画書」を提出し、1 月下旬に「博士論文作成計画書」を各学生の指導教員・副指導教員で構成する博士論文指導委員会に提出します。そして博士論文指導委員会の審査によって 2 年次 4 月に博士論文作成予備資格の可否が決定されます。その資格が取得できなかった場合は、4 月、6 月、10 月、1 月のそれぞれ下旬に「博士論文作成計画書」を再度提出します（3 年次で修了するためには、2 年次の 1 月下旬までの提出が必要）。3 月末には、博士論文指導委員会に対して、進捗状況を報告します。そして、3 年次の 12 月 27 日を締め切りとして、博士論文を指導教員へ提出します。

【研究指導体制】
研究指導体制は、指導教員（１名）と副指導教員(複数名)で構成する博士論文指導委員会もとで研究指導を受けます。副指導教員には他専修の教員が１名加わります。

【学位論文審査体制】
博士論文の審査は、指導教員と副指導教員の全員で行います。立ち会い教員として、他専修の教員も１名参加する口頭試問で、博士論文の内容について質疑応答も行います。博士論文の審査には、必要に応じて他大学の教員を審査員として含むことがあります。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み（内部質保証）】
《アセスメント・プラン》

各専修で、博士論文提出資格として、学会機関誌に掲載された論文の必要数を定め、博士論文の質の客観的な保証を図っています。

また、カリキュラムについての学生へのアンケートの結果を、FD 委員会による「カリキュラム検討 FD」を開催して分析し、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを検討することで、教学マネジメントを推進します。

新アドミッション・ポリシー

【求める学生像】

本専攻は、真・善・美という人類の最も基本的な価値についての研究を特色とすることから、学生は、ものごとを根本から思索する能力が求められます。そのためにまた、現代のみならず、過去に蓄積された重要な知的遺産、とりわけ古典とされる文献資料・芸術作品を厳密かつ正確に理解する能力も必要とされます。

修士課程における勉学により、上記の思索する能力、古典を理解する能力を十分に身につけた学生を本専攻は求めています。

【入学者選抜方法】

入学選抜に当たっては、何よりも本専攻の教育理念にふさわしい人材の確保を基本方針とします。そのため、修士論文の提出を求めるとともに、各専修に必要な専門知識や語学力を問い、さらに口頭試問を課します。本学府の修士課程から引き続いて博士後期課程に進学しようとする学生には、修士論文の評価が 80 点以上であることが求められます。